

# 1. ファミリー・サポートきよせ

(委託：NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ)

## 充実した内容の講習内容で常に学びを深め、質の高い支援を実現

### センターの特徴

運営を担うNPO法人子育てネットワーク・ピッコロは、地域の親子のニーズに目を向け、地域の中で顔の見える「住民参加型訪問サービス」に取り組み20年になる。提供会員を養成する講習会は、地域の課題を知る専門分野の講師を招き、30.5時間の充実した内容で、受講者も意欲的である。清瀬市では、民間団体が請け負う一時預かり等の子育て支援サービスも定着、行政・各機関・他の子育て支援団体と連携しながら、ファミリー・サポートもさらに柔軟な支援が求められている。

### ◆ 提供会員の確保について

#### 確保が必要になった背景と課題

市内には提供会員不足の地域もあるので、マッチングには苦慮することがある。まんべんなく支援が行き届くためには提供会員を増やしたいと思っているが、現状で大きく困っているというほどでもない。個人やご家族の事情で今はできない、一時的に活動を休みたいという提供会員もいるが、コロナ禍での不安にも寄り添い、長く活動いただくために気持ちを尊重している。

#### 確保のために実施した内容・工夫点

##### 魅力ある講習会の実施・継続

保育サービス講習会は、専門性だけでなく、地域や今の子育て事情に詳しい講師陣に依頼しており、30.5時間、自身の学び、スキルアップとしても充実した内容になっている。先生方はファミリー・サポート事業の意義をよく理解くださるので、この機会が教養講座として個人的な満足で終わらないよう、地域で求められ、活躍できることを重ねて伝えている。自身の子どもに手がかからなくなった時、仕事が一区切りした時、自分は地域のなかでどう生きていくかを考えて受講される方も多い。同じ学びを経て、共感する仲間ができる機会としても貴重。

##### ファミリー・サポートは支援の入り口

市報掲載・市内掲示板利用は効果的なので継続して行っている。保育サービス講習会の広報、案内チラシの配布先などは、支援者層に確実に伝わるよう毎回よく検討する。保育付き講座であることをアピールし、依頼会員から両方会員につながるようにも案内している。

ファミサポ提供会員としての学び、経験、意欲があればさらにその他の支援活動の担い手（養育支援・ひとり親支援・介護支援等）としても活躍の場があることを紹介している。

### 結果

年2回の講習会を継続開催、安定した人数の受講者を確保できており、少しずつだが新しい支援者も育っている。しばらく活動がなかった提供会員に久しぶりに声をかけると、「仕事がひと段落して今は時間がある」と支援を引き受けてくれるケースもあった。新規提供会員ばかりでなく、会員全体に折を見て、声をかけ、関係性を保ち、長い目でみてできる時に活動していただきたい。前身となる団体独自の訪問サービスの地盤もあって、相互援助活動が実現しやすい街だと感じている。



## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. こだわりが強いお子さんの送迎

こだわりが強いお子さんの送迎支援、事前打合せ時にお子さんがパニックになってしまうことがあると聞いていた。支援に備えて対応について提供会員から相談があり、アドバイザーが間に入り状況を整理した。提供会員からは講習会「障がいのある子の預かりについて」の聴講希望もあり支援に前向きだった。依頼会員からは子どもを落ち着かせるための対応として、声の掛け方、落ち着く物などいくつかのヒントをいただき、三者で複数のケースを想定した。アドバイザーも一緒に支援するつもりで、情報を共有しながら支援を継続している。

### Case 2. 依頼会員に寄り添う

お母さんの体調不良やコミュニケーションが負担で外出できない場合の学校・学童等からの送迎のケースは、事前打合せに相談の窓口である子ども家庭支援センター担当者も同席した。特定の支援者との信頼関係をゆっくり築き、支援を継続している。

### 配慮した点

場合によっては家の近さよりも、経験やスキルのある提供会員をマッチングすることもある。アドバイザーは時には提供会員の気持ちを代弁し、依頼会員との間を取り持ち、支援が負担になりすぎているか気を配る。相談しやすい関係性であることも大切。「困難な状況」や「配慮が必要」に線引きはないと思うが、支援に入ることによって家庭の課題に気付くこともある。信頼関係ある依頼会員と提供会員の間のことなのでアドバイザーとしては慎重さも必要だが、提供会員からのフィードバックを受け、ひとケースごとにどういう支援が必要かを考え、ファミリー・サポートの支援として、できること・できないことを見極める。提供会員もセンターも抱え込まず、団体内で相談したり、適切な支援ができる事業に繋いだりすることもファミリー・サポートの役割と考えている。

### センターデータ

所在地	東京都清瀬市		
自治体人口	75,000人		
設立年	平成17年度		
運営方法	委託：NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ		
会員数	2,220人	うち提供会員数	238人
活動件数	2,499件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	障がいを持つ子どもの預かり・送迎

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 2. 大和市ファミリー・サポート・センター

(委託：NPO法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア)

### 他事業との連携で会員確保につなげ、寄り添う支援を目指す

#### センターの特徴

2000年ファミリー・サポート型の子育て支援チャイルドケアを設立。平成23年度に大和市からファミサポ事業を受託。現在はファミリー・サポート・センター、養育支援訪問事業、広場事業（2か所）を委託事業として運営。また令和2年度より、大和市との協働事業として家庭訪問型子育て支援ホームスタートを運営。

### ◆ 提供会員の確保について

#### 確保が必要になった背景と課題

大和市の中でも提供会員が地域によってばらつきがでてしまっていて、提供会員が少ないところの支援が行いづらいという現象が起きている。依頼会員数は毎月20～30ペースで増えているのに対して、提供会員がどうしても1～2人ぐらいのペースで増えていくような感じ。依頼する会員に対して提供会員の割合はどんどん差が開いていくという状況。

#### 確保のために実施した内容・工夫点

##### 他事業との連携

ファミサポ事業以外にも他事業（ホームスタート事業、つどいの広場事業）との連携の中でファミサポ事業への理解を深めていただき、1人、2人と協力してくださる方がいらっしゃる。ファミサポ事業では、時間が長かったり、場所もいろいろで、提供会員が預かるだけでなく、依頼会員宅での見守りなど利用される方の要望になるべく合わせたいと思っている。提供会員にあまりストレスを貯めないで細く長く続けていただけるように、配慮しながらサポートをお願いしたり、相談に乗っている。

今年度はホームスタート事業の方にピンポイントでお話をしたことが少しずつの増加につながっている。

##### 市の広報を活用

11月に提供会員募集の告知をしたところ、5人応募があって3人登録、1人はこれから説明という状況。大和市の広報紙による募集が最も効果的。

##### 活動できる会員を常に把握

アドバイザーが会員管理をしていて、しばらく活動していない会員には継続の意思があるかどうかを連絡して確認している。新規の依頼がきたときには、新しい提供会員、活動していない提供会員に向けて、まずは支援ををしていただけるかの確認の連絡をしている。

##### 地区会の活用

大和市では地区会というものがあ、依頼会員と提供会員の間にあってマッチングする各地区のコーディネーター（アドバイザー）が地区会を主催し、支援会員同志の交流や情報交換の場として活用している。

### 結果・確保を実現できたポイント

活動していない会員への確認も行っているため、増減を繰り返している状況ではあるが、少しずつ増加している。今年度は提供会員の数が114→121→119人となっており、実際にサポート活動をしている方が大体70人ぐらい、あまり活動していない方が50人ぐらいで、半数以上は動いているという形になっている。



## ◆ 困難事例への対応

### 児童相談所等に保護されていたお子さんが戻ってきたときに、ファミサポを再開

#### 寄り添うことでその人たちがエンパワーメントを少しでもできるように

ひたすら寄り添うということはあるが、適切な対応であったかどうかというのは自分たちで総括しきれていない。そもそも困難事例は解決することがない。市内にいらっしゃる限りはずっと支援が続くものだと思っている。

児童相談所等に保護されていた子どもや、一定程度施設にいたお子さんたちが戻ってきたときに、ファミリーサポートを再開して、児相や市と連携してファミサポを使った事例。例えば所属をつけた保育園にちゃんと送り迎えをする。養育が厳しいときは一時的に預かることで、少しでも親の負担を軽くする。協力者がいないご家庭は結構孤独なので、そういう人たちに寄り添うことでその人たちがエンパワーメントを少しでもできるようにと心がけている。

お子さんが学校に少しずつ行けるようになったり、情緒が不安定な状態が少し良くなったりする。

### 配慮した点

#### 長いスパンで周りと連携して支援し続ける

支援には時間がかかる。ちょっとやったからすぐ結果が出るとか解決するということはずまない。10年も前にサポートしていた人たちといまだに付き合っているというように、長いスパンで周りと連携して、行政機関との連携プレーで支援し続けている。

### センターデータ

所在地	神奈川県大和市		
自治体人口	241,000人		
設立年	平成23年度		
運営方法	委託：NPO法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア		
会員数	2,453人	うち提供会員数	115人
活動件数	10,025件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	保護者の就労（短期・臨時・求職活動等）の場合の預かり・送迎など
3位	買い物等外出の際の子どもの預かり

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 3. 大垣市ファミリー・サポート・センター

(委託：NPO法人くすくす)

### つながりを大切に、丁寧な聴き取りで、寄り添う支援

#### センターの特徴

大垣市は岐阜県の西部に位置し、商業と工業が盛んな人口16万人の中堅都市。昔ながらの顔見知りの方もいらっしゃる一方で、人の入れ替わりも多く、人と人の顔がつながっている地域とそうでない地域が入り交じっている。

大垣市ファミリー・サポート・センターは、発足時から2019年までは大垣市社会福祉協議会が、2019年度よりNPO法人くすくすが受託。センターは市の子育て支援拠点の中にある。

### ◆ 提供会員の確保について

#### 確保が必要になった背景と課題

提供会員数は133人だが、実働は30人程度となっており、実働できる提供会員の不足を感じている。高齢化などに伴い、この1年間でだいぶ新しい会員の活動に変わりつつある状態である。昔からやっていた会員が30人の中で3分の2ぐらいの状態だと思う。

#### 確保のために実施した内容・工夫点

##### 会員になってもらうための声掛けは種をまくイメージで

ホームページでの広報、チラシの配布、両方会員になっていただくための声かけなど、種をまくイメージで継続的に行っている。センターが子育て支援拠点の中にあるということもあって、依頼会員の登録受付の際に、両方会員になってもらうような働きかけを、1年くらい前から行っている。

##### 市の子育て支援拠点を活用

センターが子育て支援拠点の中にあるということもあって、依頼会員の登録受付の際に、両方会員になってもらうような働きかけを、1年くらい前から行っている。拠点の利用者からいろいろな話を聞いている中で、ファミサポに興味を持ってくれた方には「今度（研修会が）あるよ」と声掛けしたり、チラシを渡したりして誘導している。

##### 受講者のニーズに合わせて研修会を開催

研修会はいろいろな方に受講していただけるように、休日に行ったり、育児中の方が参加できるように午前中を中心に何回か日にちを分けて行ったり、託児付きで実施するなど、いろいろなニーズに合わせて形で開催するようにしている。

##### 市の広報誌でPR

年3回実施している養成講座の開催時に、市の広報誌に案内を掲載してもらうようにしている。

#### 今後の展望

辞める方もいるので、現在は減少傾向にある。しかしながら、実働できる会員を把握できているので、これから少しずつ提供会員数を伸ばしていければと考えている。

2019年に託児付きの養成講座などを行った際に会員になった方で、お子さまが園に入ったり小学校に入ったりしたという形で提供会員として活動している方もいる。今後も両方会員を増やし、子どもの成長に伴い活動できるよう、その都度背中を押していきたい。



◆ 困難事例への対応

Case 1. 気持ちがちょっと不安定なお母さん

気持ちがちょっと不安定なお母さんがいらした。依頼されたときの内容と実際に活動に入ったとき依頼内容が変わっていて、例えば平日でいいよと言われていたのに、やはり土日も対応してほしいと気持ちが急に変わったり、預かりだけだと聞いていたのにやはり送迎もという感じで、活動が始まってから気持ちが変わるということがあった。初めにマッチングした提供会員さんでは続かなかったが、依頼会員の気持ちが急に変わっても柔軟に対応してくれる別の提供会員の方をお願いした。

配慮した点

丁寧な聴き取りを行い、寄り添ってくれる提供会員に引き継ぐ

提供会員、依頼会員の両方からの話をアドバイザーが丁寧に聞き取りを行い、依頼会員の状況を理解して寄り添ってくれる提供会員に引き継いでもらった。センターの方針として、困難事例であってもアドバイザーが提供会員のような支援はしないようにしている。会員相互の活動なので、そこはしっかりと線引きをしている。

センターデータ

所在地	岐阜県大垣市		
自治体人口	160,000人		
設立年	平成20年度		
運営方法	委託：NPO法人くすくす		
会員数	1,080人	うち提供会員数	133人
活動件数	1,358件		

活動件数トップ3	
1位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
2位	保育施設までの送迎
3位	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
 会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 4. 加古川市ファミリー・サポート・センター

(委託：一般社団法人関西コミュニケーション・サポートセンター)

### 戦略的な広報の実施による会員確保と未来につながる支援を目指す

#### センターの特徴

令和3年度より直営から一般社団法人関西コミュニケーション・サポートセンターによる受託事業としてスタート。7～8年前に同じ地区に依頼が集中した時期があり、それを機に提供会員の確保に取り組んだ。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

現状、需要と供給はいいバランスにあるが、今後を見据え少し増やした方がいいと思っている。ただ、依頼会員（保護者会員）の登録も減ってきているので今後は提供会員の増員が必要な地域に絞り募集をしていく予定である。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

- 7～8年前に同じ地区に依頼が集中した時期があり、それを機に提供会員の確保に向かった。
  - ・市の広報誌で提供会員の募集をしていた。それに加え講習会の受講者を増やすため、近隣のスーパーなどにチラシを置いたり、地域のお祭りや研修会などのイベントで呼びかけたり、いろいろと手を打った。
  - ・一番ヒットしたと思うのは、目線を変えたこと。当時5～6人の受講者が40人くらいに増えた。
- 結果がでてくるまで2、3年かかるものもあるので、継続的な取り組みも重要だと感じている。
- ・目線を変え、チラシの内容を変更したのも効果的だったと感じる。

#### 市民の方がファミサポの事業に賛同してくださって、私もお手伝いしたいなと思ってもらえるためのチラシにシフト

提供会員というネーミングではなく見る側目線でのチラシを作成

→「地域で子どものサポートをしていただける人」、「子育て地域サポーターになってみませんか」など

全ての人をターゲットにするようなチラシを何種類かに分けて作成

→「近くの子どもの見守りをしてくれませんか」、「お時間が空いている人はお手伝いしてほしいです」など

#### 市と連携 市の広報と回覧板を使った周知と継続的かつ効果的なチラシの配布

市の広報かこがわに掲載と同時に回覧板を回してもらえるようにした。

どの世代がなにを目にしているかについて調査した結果、市民の中で提供会員になってほしい世代は広報も見ているが、回覧板を見ている人が多いことがわかったのでそこにアプローチを行った。

1回目は効果が少なかったが、2回目、3回目、同じチラシを心がけて「これ、前も見たな」となるようにした。

3回目ぐらいに一気に受講者が増えた。

広報実施のタイミングは、研修会の前など時期を絞り、効果を狙って実施。

#### 口コミの効果と研修会の充実

提供会員にも、ファミサポの活動をしてよかったと思ってもらえるように、まず提供会員の意識改善から始めた。

提供会員も「私、こんな活動してて楽しいわ」など口コミで広がっていった。

提供会員の意識改革のための研修会の工夫

テーマとしては「子どもの生きる力を育てる方法」といったように、受講者が興味があるであろう子どもを着地点としたテーマに設定し、集まった受講者に、意識改革につながる内容の研修を行う。

全提供会員に対して、毎年、どれぐらいサポートできるかをアンケート調査している。（封書で）



## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. 保育園からの通報で両親のDVが発覚して保護されたお子さんのケース

市の担当課は、ファミサポの一時預かりを利用して出来るだけ親から離し、DVが再発しないようにするとの計画のようだったが、お母さん、ご主人、市の方も含めて話をしてみても、親御さんが本当はどうしたいかを聞き取った。

結果お母さんとお子さんが一緒にいる中でサポーターが支援に入り、少しずつ親の改善に務めるサポートを行っていった。お母さんが一番苦しいときは週末、土日の日中3～4時間ぐらい、保育園がお休みの日に半年くらい支援した。そこから徐々にサポートを減らしていき、保育園への送迎のサポートに切り替え、提供会員2人体制で1年6か月くらいサポートした。

支援を始めて1年6か月くらいでお母さまも落ち着き、今は自分ひとりで、お子さんを保育できる時間も増え、ファミサポはこの3月末で卒業予定。

### 配慮した点

#### お母さんが子どもと望む未来に視点をまずおく

お母さんが子どもと望む未来に視点をまずおくことにしている。お母さんが子どもと未来的にどういう形になりたいのかということを取り、それに向かうようにサポートしていく。

どのサポーターにサポートに入ってもらうかは、十分吟味する。

行政とは常日頃から連携している。

## センターデータ

所在地	兵庫県加古川市		
自治体人口	260,000人		
設立年	平成15年度		
運営方法	委託：一般社団法人 関西コミュニケーション・サポートセンター		
会員数	2,037人	うち提供会員数	608人
活動件数	2,768件		

### 活動件数トップ3

1位	放課後児童クラブ開始前の預かり・送迎など
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	保護者の就労（短期・臨時・求職活動等）の場合の預かり・送迎など

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）



## 5. ファミリー・サポート・センターくるめ

(委託：NPO法人ル・バトー)

### 充実した多胎児支援メニューと行政との連携で産前産後を手厚くサポート

#### センターの特徴

久留米市では多胎妊産婦の方を対象として、多胎育児経験者を自宅等に派遣する産前産後サポート事業やエンゼル応援隊（産前産後ヘルパー事業）があり、ファミサポと市、多胎育児支援団体がうまく連携して運営している。近隣のうきは市、大木町、大刀洗町も管轄している。

また療育や通級などで発達障害のお子さまの利用も多く、民間も含めてそれぞれの家庭にあった支援を提供している。ファミサポのアドバイザーは市の産前産後サポート事業を受託している多胎児支援団体の代表を兼任。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

開設16年目となり、提供会員が高齢化して退会していく会員が多くなっている。また、高齢の提供会員でも働く人が増えていることもある。依頼会員はニーズが増加し、数が増え、依頼の内容が多様化している。

講習時間の増加（24時間）で、最初は簡易な養成講座で登録できていたものが、24時間講習になり、1回で終わらない方が増えてきて、提供会員の減少に対して増加が追い付かない状況が起こっている。

広報についても、各市町の取り組みや広報の仕方に差があったり、市の経費削減で広報紙に載せてもらえないという大きな事情がある。

コロナの影響もあり、ここ1～2年は受講者の確保が難しくなっている。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

#### 行政関連の団体の会合へのあいさつ

主任児童委員、民生委員、食育推進の協議会、社会福祉協議会などの団体の会合等へあいさつに行ったり、講演会などの場で案内している。しかしここ1～2年はコロナ禍もあり、研修会が全くなく、厳しい状況になっている。

#### ◆ 困難事例への対応

##### Case 1. お母さんに精神疾患があり、本人も障がいのあるお子さんの地域の学校への送迎支援

#### 関係者を巻き込んで、どうやったら通えるかを考える

学校の新入学者の障害児の説明会などに提供会員3名、アドバイザー、保護者が同席し、通常学級の担任、支援学級の教員とともにどうやったらその子が通えるのか打ち合わせを行った。

#### お母さんへのフォローも連携して行う

またお母さんが、誰がその日に迎えに来るかなどが分からなくなるタイプの障がいがあったので、提供会員の写真と名前と連絡先を一覧表にして冷蔵庫に貼ったり、訪問看護の担当とも連携してフォローしてもらい、通学が可能となった。



## ◆ 困難事例への対応

### Case 2. 既に双子のいらっしゃるご夫婦が、家族に反対されながらもあらたに三つ子を出産

既に双子のいらっしゃるご夫婦が、あらたに三つ子を家族に反対されながら出産された。久留米市は多胎児の支援が充実しているということで久留米市に転入してきた。ファミサポは、三つ子が病院にいるうちに保健師たちと事前にしっかりと相談して、準備した。

#### 配慮した点

##### 関係機関全てが連携して見守る

まずお父さんが育休をとり、三つ子は低出生体重児で生まれしばらく病院にいた。多胎児はなるべく一緒に退院させるほうがよいという考えもあるが、上に双子がいることもあり、ひとりずつ退院させ、病院、児童相談所、市の保健師や家庭子ども相談課職員、エンゼル応援隊、多胎育児支援団体、ファミサポで連携して見守った。

##### 考え得る全てのサポートをつないでフォロー

ファミサポ、産前産後サポートのほか、コロナ禍の食糧配布支援（市）、生後6か月までのベビーシッター料金の補助（国）など市で使えるすべてのサポートのほか、エンゼル応援隊やファミサポの提供会員が子どもたちのお世話をし、無認可の保育所、託児所などを利用するなどサポートを全てつないでなんとか対応した。その結果、反対していた家族も少しずつサポートにきてくれるようになった。

## センターデータ

所在地	福岡県久留米市		
自治体人口	303,000人		
設立年	平成17年度		
運営方法	委託：NPO法人ル・バト-		
会員数	1,730人	うち提供会員数	423人
活動件数	1,447件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり
2位	買い物等外出の際の子どもの預かり
3位	その他（多胎児支援、通級・教室への送迎）

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 6. 沖縄市ファミリー・サポート・センター

(委託：NPO法人こども家庭リソースセンター沖縄)

### 困っている家庭や子どもをきめ細かくサポート

#### センターの特徴

NPO法人こども家庭リソースセンター沖縄による受託事業。こども家庭リソースセンター沖縄は、子どもの豊かな育ちを支える保育環境・親の育ちを支えるソーシャルワーク地域のつながり愛・補い愛力向上に寄与するため、生命が循環する新たな支えあいと連帯の仕組みを協働体制でつくることを目指し、「子どもと家族全体のウェルビーイング」を理念に、より良い子育て・家族環境の創造に貢献することを理念としている、きめ細かい支援ができる、地域に根ざした専門家集団。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

設立当初、依頼会員対提供会員は7：3だったが、7～8年経過した時点で8：2ほどになり、ここ4～5年は8.5：1.5という実感。提供会員がかなり不足していると感じる。依頼会員のニーズがあまりにも多く、提供会員が追い付かない。

自分が提供会員をやることについては躊躇があるのではないかと思う。大変な時間帯に大変なことをするのに、1時間600円～700円では一生懸命やるのには少し引き合わないところがあるかもしれない。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

#### あらゆるところでファミサポをアピール

- ・沖縄市広報に毎回講習会情報を掲載
- ・講習会参加者減少傾向のため内容や知名度のある講師選定等、工夫した
- ・新聞取材もあり、ファミサポの仕組みやどういう時に利用できるか等取り上げてもらった
- ・地域の母子推進員や民生・児童委員、子育て支援関係者（園長会・子育て支援センター・児童館・子どもの居場所スタッフ等）に対して説明会やファミサポ通信配布を行っている
- ・お隣の「FMコザ」において、「提供会員になりませんか？」という広報活動もした

#### ◆ 困難事例への対応

##### Case 1. 経済的困窮家庭への支援

沖縄市ファミサポは、ひとり親家庭等子育て困難家庭が多い。謝礼金は払えないがサポートが必要という事例がセンター開所当初からあった。NPO法人としてチケット券（600円のでーだチケット 30枚限度）発行で、サポートが無料で受けられる仕組みを平成15年から現在まで続けている。（原資：NPO法人への寄付金・会費から）現在は、厚生労働省「ひとり親家庭等」支援金に沖縄市の加算金を足して「ひとり親家庭及び低所得家庭等」に利用支援を行っている。（1家庭年間限度額2万円 利用者70人程度）

ひとり親家庭等支援とNPO法人でーだ基金の両方活用したサポートでも足りない家庭があり、深刻な実態がある。



## ◆ 困難事例への対応

### Case 2. 子育て困難家庭への支援

NPO法人自主事業として「ファミサポ相談室 アンダンテ」を11年間開設している。

<対応事例 1 >

3か月双子のお母さん（母親再婚・父親初婚）が1日24時間のサポート依頼があり、数日間4～5名のサポーターが依頼者宅で子どもの世話をを行った。後日父母ともに相談室来所を促し、ステップファミリーの複雑な家族問題が見えた。保育園情報もお伝えした。

<対応事例 2 >

若年母子 母親の通院時子どもの預かりを依頼された。臨床心理士の相談も実施。

<対応事例 3 >

父子家庭の保育園送迎活動

活動するにあたって「父親とのコミュニケーションがとれない」という悩みがサポーター数人から寄せられたため専門家2名を招きスキルアップ研修会を開催した。

### 配慮した点

#### 関わりの中でわかってくるさまざまな問題の相談にのる

ファミサポは地域相互援助活動であり専門的援助ではない。しかし、地域には多様で複雑な問題を抱えた親子がいる。相談室でしっかり話を聴くことで支援の仕方が分かる。本人の同意のうえ専門相談機関に同行する場合もあり、寄り添い型支援を心掛けている。不安感の高い親子の場合、センター内預かりで様子を見ることもある。

### センターデータ

所在地	沖縄県沖縄市		
自治体人口	143,000人		
設立案	平成15年度		
運営方法	委託：NPO法人子ども家庭リソースセンター沖縄		
会員数	3,100人	うち提供会員数	304人（両方会員含む）
活動件数	7,818件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり
3位	その他

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 7. こどもサポートふらの

(委託：NPO法人こどもサポートふらの)

### お母さんたち自身による活動から始まった、両方会員主体のニュータイプのセンター

#### センターの特徴

地域の温かいつながりを最大限に活かし、一人ひとりの子どもに寄り添った豊かな育ちを支えることを目的に、2012年春、ママ達自身による子育て活動から「こどもサポートふらの」が誕生し、同年秋にはNPO法人となった。2013年から、中富良野町の委託を受け「上富良野町・中富良野町ファミリー・サポート・センター」を運営している。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

病児の預かりが富良野管内に無く、保育園を休めないお母さんがパートを辞めざるを得なかったという話があったり、お母さん同士で問題意識を持って、自分たちで病児保育をしようというところから立ち上がった団体であり、当初から両方会員が多かった。

お母さん同士の口コミで活動が周知されていることが多いので、若いお母さん同士の活動と思われる様子も見受けられる。多世代で支え合える方が活動も充実していくと思うので、先輩世代の方に参加していただけるようにしたい。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

#### お母さんたちの口コミを活用

お母さんたちの口コミが一番威力がある。会員との関係をいいものにしておけばお母さんほど口コミは効果を発揮する。

提供会員養成講習会を、ファミサポの提供会員になることが前提ではなく、ご自身の子育てに役立つ、無料で託児も使える講習会と位置付け、生まれたての赤ちゃんがいるお母さんや、妊婦さんにも声をかけるようにしている。

#### お母さんたちが参加しやすい講習会の工夫

また、両方会員の若いお母さんが24時間びっちり受けるのは難しいので、受けられなかった講座は次にまた受けてくださいと延長している。何度も受講することで、お母さんがファミサポとの関わりを継続的に持つことにもつながる。

講習の内容は厚生労働省推奨のカリキュラムに、2時間追加して、提供会員というのは地域で子育てを応援する応援団だよ、仲間だよ、という気持ちを醸成する講座を最初に設けている。

アドバイザーと提供会員との連絡はLINEを使い始めた。またGoogleカレンダーを共有してサポートがあるとそこにいれていくようにすることによって、アドバイザーやサブリーダーなど調整を手伝ってくれているメンバーがどこからでも見られる形になっている。周知にもSNSを活用している。

#### 結果

両方会員として登録され、お子さんの成長に伴い提供会員に登録を変えるケースが多い、提供会員だけという方は当初からおらず、提供会員のみの伸びは緩やか。



## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. お母さんとのコミュニケーションの難しさを感じる事例

乳幼児を4人育てているご家庭（若年多子で要支援家庭）で、夕食時の食事、入浴など、一人ではフォローが難しい時間帯にファミサポを使って介助する、お手伝いするというケース。

お母さんは提供会員任せにしまいがちで、お母さんがいながら提供会員が入る場合の難しさがあった。

### 配慮した点

#### まず、アドバイザーが提供会員として入ってみる

アドバイザーが提供会員として入ってつなげるという仕組みを作った。まず、アドバイザーが入り、どのようにサポートができるのかと現場の状況を確認して、そのうえで適切な提供会員のマッチングをするようにしている。

しかし、まだ難しさがあり、行政の方ともつながって支援を続けるようにした。何かあった場合には必ず行政や関係機関など、ここにはつなげたいというところとは連携体制をとるようにしている。

### センターデータ

所在地	北海道中富良野町・上富良野町		
自治体人口	中富4,700人・上富11,000人		
設立年	平成25年度		
運営方法	委託：NPO法人こどもサポートふらの		
会員数	376人	うち提供会員数	76人
活動件数	813件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり
3位	買い物等外出の際の子どもの預かり

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 8. いるまファミリー・サポート・センター

(委託：社会福祉法人入間市社会福祉協議会)

### 親しみやすいチラシ作りや地道な広報で周知を図り、子どもの育ちを見守る応援団に

#### センターの特徴

入間市は地域によって、若い世帯の多い地域と茶畑などがたくさんあって昔ながらのエリアと二極化している。昔ながらのエリアではご両親が近くに住んでいる方たちが多く依頼が少ない一方で、若い世帯の多い地域は通勤族の方々も結構多いので、住民の転入・転出が頻繁なエリアになる。

保護者の困りごとや悩みなどをきちんと受け止めて、お母さんに寄り添うことでお母さんがいい方向になるように一緒に考えようという姿勢で関わっていくことが大事だと考えている。また提供会員がやりがいを持って活動できるように、子どもにも提供会員にも過度な負担がかからないよう調整している。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

事業開始から18年経って、初期の登録者の高齢化が顕著になってきた。設立当初とは社会情勢が変化し、時間的余裕のある人が減り、講習会への参加者も年々減少している。

近年、送迎の依頼が増えてきているが、車を使える方がなかなか増えない現状がある。今支えてくださっている70代の方々がこの先5年経ったら活動できるかという、やはり難しくなってくるため、長期的な視点で確保の必要がある。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

#### 市の広報や社協だよりに掲載

一番効果があるのは、市の広報に掲載されること。社協だよりやホームページに掲載することも効果があると考えている。

地域のケーブルテレビやFMラジオに出演して、ファミサポを広く知ってもらえるよう努めている。

#### 時間があって元気な方にアピール

公共施設や生涯学習掲示板などにポスターやチラシを随時掲示したり、地区体育館など、「時間があって元気な方」がいるところにポスターを貼らせてもらっている。

#### 具体的なイメージをもてるチラシを作りポスティング

地域にポスティングをして歩き、「この地域の提供会員を探しています」など、具体的なイメージをもてるようなチラシを作っている。

#### 4コマ漫画で親しみやすさを演出

市内のイベントで配布する手作りのPRグッズにもチラシをつけ、そのチラシに4コマ漫画などを使い、目にとまり親しみを持ってもらいやすいようにしている。

#### 結果

まずは「ファミサポ」を知ってもらうことが大事なので、チラシに4コマ漫画を載せると、漫画だけちょっと見てくれることがあったりする。何度か見ることでファミサポが無意識的に頭に入っていくと思う。

何度かチラシを目にすることで、「ああ、うちのポストにも入ってたな」「広報誌にも出てたな」という何度目かのタイミングで講習会に参加される方が出る場合がある。

**地域の子育て応援団！ファミサポです♡**

ファミサポは、地域の子育てをお手伝いする有償ボランティア活動です。地域の方が、0歳～小学6年生までのお子さんの預かりやほり湯えなどのお手伝いをしています。コロナ禍でもできる限りの感染症予防策をとり、提供会員さんの安心が前提に支えられるがサポート活動を続けています。ちょっと手が足りないなあと感じるセンターにご相談下さい。また、提供会員さん（お手伝いしたい方）も募集しています。令和3年度の第1回提供会員基本講習会は、土曜日に開催する予定です。ご夫婦での参加も大歓迎！お仕事等平日に時間がない方はこの機会をご利用下さい。

★こんなお手伝いがあります★

- ・朝や夕方、保育園や学童保育室への送迎
- ・保護者の帰宅まで、提供会員宅での預かり
- ・出席前後の保育園の送迎や上の子の預かり
- ・上の子の学校行事の時の下の子の預かり
- ・日中、外出時に赤ちゃんの預かり 等

ファミサポ日記

※活動の様子や講習会の日程等詳細は、社協のホームページよりファミサポをクリック！

**いるまファミリー・サポート・センター 電話 04-2964-2666**

## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. 外国籍のひとり親のお母さん、保育園の送迎について家児相から相談があった事例

お母さんには心身ともに疾患があり、子ども依存の傾向がみられる。子ども（3歳）にも疾患があり、なかなか保育園に登園できず、送迎の依頼を受けた。低所得なため、突発的な依頼が多い。

#### 配慮した点

#### 理解のある提供会員につなぐ

親子とも前の保育園になじめず、ファミサポの利用を条件に転園が決定。この親子に対してとても理解のある提供会員につなぐことができ、今は突発的な依頼にも対応してくれ、長い目でこの親子を見守ってくれている。

提供会員が新しい保育園の先生と顔合わせまでして、これからお願いしますということで動き出したところでまた保育園に行かなくなってしまうという流れが繰り返されている。そういう状況を提供会員さんがよくわかってくださっているの、久しぶりの依頼の時も、「お母さんは転居するとも言っていたし、本当にこの園に送っていいのか」と疑問に思い、まずは提供会員自身で保育園を確認しながら動いてくれた。お母さんは専門職の方にはちょっとシャッターを閉めてしまう傾向があるが、提供会員は地域の人として関わってくれるため一番連絡をとりやすい。できる範囲のことは自分で確認してくれる提供会員さんは、第三者の立場をよく心得てくださっていて、保育園の先生とも上手に関わってくれるので、提供会員さんがいてくださっていることでバランスを保っている。

#### センターデータ

所在地	埼玉県入間市		
自治体人口	147,600人		
設立年	平成15年度		
運営方法	委託：社会福祉法人入間市社会福祉協議会		
会員数	1,422人	うち提供会員数	385人
活動件数	4,188件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	放課後児童クラブ開始前の預かり・送迎など
3位	放課後児童クラブ終了後の預かり・送迎など

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）



## 9. ファミリー・サポート松田

(委託：社会福祉法人青い鳥)

### 温かいサポートで、ママたちから絶大な信頼を得る

#### センターの特徴

松田町は町民1万人ほどの小さな町。地域の子どもを地域で育てるという高い意識が、子育て支援に良い影響を与えている。ファミリー・サポート松田は「子育てのサポートを受けたい方」と「子育てのサポートを行いたい方」が、自発性と責任性を持ちつつお互いに助け合うことで、安心して子育てができる環境づくりに役立つことを願って平成18年に設立された。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

提供会員は高齢化による退会者が増え、両方会員は仕事を始める方が多くなってきた。新型コロナウイルス感染発生以降、他のボランティア活動ができなくなったことや社会的な使命感などから、提供会員は(本当に危険な時期を除いて)ファミリー・サポートの活動に力を入れてくださっている。

提供会員が不足しているという認識はない。提供会員一人ひとりの人生の中で会員として活動できる時期とできない時期があることを理解して、長いおつきあいをしていくことが重要ではないかと思う。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

#### 関連のある他団体の会合・研修に出向いてのPR

町の民生児童部会、健康づくり普及員、母子保健推進員、町内の保育サークルボランティアの会合や研修に出向いてPRを行った。出掛けた先のいづれどこでもファミリー・サポートの話ができるように準備している。

#### 魅力的な講義内容の研修会はファミサポを知っていただくための第1歩

提供会員研修会は、ファミリー・サポートを知っていただく為の第1歩で、その講義は他のボランティア活動をしている方にも子育て中の保護者にも魅力的な内容だと思う。PRを行った団体やサポートの依頼が多い依頼会員、併設する子育て支援センターに頻りに来所するママたちに、提供会員研修会への参加や両方会員への登録を促した。提供会員登録後は、子育て支援センターとの共催行事(リフレッシュ講座)にママたちが参加している間、子育て支援センターのフリースペースでベテラン提供会員に交じって、10人の子どもを1対1で預かる体験をしていただいた。

初めてサポート活動を行う方にはベテラン提供会員がどんな風に預かりをしているか、また、子育て支援センターで子どもたちが伸び伸び遊ぶ姿を見ていただくことが重要だと考えている。提供会員と子どものマッチングについては悩むところだが、預かりの現場で、提供会員と子どもとママとの思いがけない化学反応をたくさん見てきたので、あまり考えすぎないようにしている。

#### 結果

提供会員の増加あり。提供会員宅での預かりは、提供会員・依頼会員双方が少し重たいと感じているようだ。アドバイザーの手と、他のママたちの目がある中での子育て支援センター預かりが増えている。



## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. 精神疾患を抱えるママの事例

常に情緒不安定で、保健師・保育園園長・警察・病院・子育て支援センターなどの至る所に自分から相談をしていた。離婚が成立し新たな職を得て徐々に依頼は減り、2020年を最後にサポートは終了した。

#### 配慮した点

#### 関係機関との密なコミュニケーション

行政と子育て支援センターとの連携を常に取っていたこと、提供会員との連絡を密にしていたこと。

#### センターデータ

所在地	神奈川県足柄上郡松田町		
自治体人口	10,521人（令和3年3月31日現在）		
設立年	平成18年度		
運営方法	委託：社会福祉法人青い鳥		
会員数	367人	うち提供会員数	71人
活動件数	693件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	産前・産後の育児援助

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 10. 長岡市ファミリー・サポート・センター

(直営：長岡市教育委員会 子ども未来部子ども・子育て課)

### サブリーダーが果たす役割が大きいグループワークが好評

#### センターの特徴

新潟県長岡市子ども・子育て課の直営で、平成14年開設。長岡市は子育て支援に積極的に取り組んでいる自治体。センターは市の子育て支援施設である、子育ての駅ちびっこ広場の中に入っている。

### ◆ 提供会員の確保について

#### 確保が必要になった背景と課題

平成14年度のセンター開設時、講座を前倒して提供会員を増やす活動をしていたので、最初から不足しているという状況はなく、その後も提供会員は増えていった。

#### 確保のために実施した内容・工夫点

##### 市の広報や市政だよりなどでファミサポを周知

広報や市政だより、市内の子育て支援施設に出向くなどいろいろなところでファミサポを周知。

##### 文書の書き方を工夫して退会者減へ

以前、現況調査で正確な意向確認を意図して「退会される方」という文書を作って送付したところ、一気に退会が増えてしまったことがあった。そのため、「退会」を意識させないよう文書の書き方を見直した結果、大量の退会者は出なくなった。退会の意向を示される提供会員に対しても「こういうことができるのだったら、残っていただけるとありがたいです」とお伝えすると、登録状況の改善にもつながる。

活動を長期間行っていない提供会員に対しても、電話をかけてフォローすると残ってくださる方もいる。

##### 母子保健推進員の会に出向いて提供会員の勧誘

赤ちゃんが生まれた方の家庭を訪問する母子保健推進員の会合に出向いて、提供会員の活動内容などを説明し、登録への声掛けをしている。また、子育て世代の相談を受ける子育てコンシェルジュの会合に出向き、ファミサポの周知を行っている。

##### サブリーダーを活用したグループワークの実施

提供会員になるための講習会を受けることがひとつのハードルになっている。受講者の不安を払拭させることが大事と考え、講座の初回と最終回に、サブリーダーを活用したグループワークを実施している。これが大変好評である。

初回でサブリーダーに活動への疑問に答えてもらい、最終回には、受講者が一歩を踏み出す背中を押してもらう。

会員になる方をとにかく安心させることがサブリーダーの一番大事な役割。実際に来られた方をどうつなげるかということが大事だと思っている。

これらの工夫を積み上げてきた結果、急激に提供会員が減ることが全くなり、同じ数を推移したり、年間で10名ほど増えたりと、今のところいい流れで確保ができています。



## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. 体が不自由な中学生のお子さんの送迎支援

この中学生のお子さんについては、ファミサポとしてはバギーに乗せたり、送迎の支援だけではできるのだが、介助はできないため、介助については介助担当者が別について実施し、送迎の部分をファミサポが対応した。

### 配慮した点

#### 中学生でも障がいのあるお子さんは支援をする

長岡市のファミサポは、中学生でも障がいのあるお子さんは支援をすることになっている。どこまで支援できるか迷うことも多いため、できるだけ担当課に相談したり、アドバイザーが意見を出し合って相談しながら対応している。

#### 提供会員に対しての普段からのフォローや聴き取りが大事

支援可能な提供会員を選ぶことが一番重要だが難しい部分でもあり、提供会員に対しての普段からのフォロー、聞き取りを行う必要がある。

提供会員は専門職でなく、あくまでもボランティア活動であるということを踏まえて、提供会員にとって無理のない支援を行ってもらうことが大切であると常々思っている。

長岡市は直営でもあり、行政の限界、ファミサポでできる援助の限界、提供会員でできる活動の限界を常日頃から、意識的に伝えるようにしている。

### センターデータ

所在地	新潟県長岡市		
自治体人口	263,000人		
設立年	平成14年度		
運営方法	直営		
会員数	1,290人	うち提供会員数	311人
活動件数	2,964件		

活動件数トップ3	
1位	小学校・児童館の送迎およびその前後の援助
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	保育施設までの送迎及びその前後の預かり

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業(アドバイザー調査)

# 11. きたかた子育てサポートセンター

(委託：NPO法人クラブまちてらす)

## 会員同士が非常に仲がよく、支援が広がる

### センターの特徴

NPO法人クラブまちてらすは、まちなかの景観整備など多方面でのまちづくり活動に取り組む中、「子どもも元気・大人も元気な喜多方市」を「子育て支援」というソフト面でのまちづくりとして実現すべく平成21年1月に「きたかた子育てサポートセンター」を開設。同年喜多方市よりファミサポ事業を受託。

ファミサポ事業のほかにも、ひろば（子どもの遊び場）とホームスタート（家庭訪問型支援）を運営しており、子どもが生まれてから大きくなるまで、継続的な関わりで地域で子育て家庭を支えていこうと更なる支援の充実を図っている。

## ◆ 提供会員の確保について

### 確保が必要になった背景と課題

コンスタントに毎年講習会を開催してきたので、比較的確保はされていた方かなと思う。今後リタイアされる提供会員も多くなるだろうと予測しているため、若い世代へのアプローチを始めている。

### 確保のために実施した内容・工夫点

#### 若い世代へアプローチ

当初は市の広報で周知していたが、若い世代は広報誌を見ない人もいるので、新聞に注目し、折り込みにチラシを入れた。「子育て中のママさんたちへ」と若いママたちに呼びかけた。

NPO法人で行っている「子育て広場」の利用者に直接声をかけた。講習会では託児もつけたので、20～30代のママたちが集まってきて盛り上がった。

#### リタイアされる方からのご紹介

リタイアされる方でも、お嫁さんであったり、自分の周りの近い人やお友達を紹介して下さって、戦力になっている。

#### なじみやすい環境づくり

講習会の後にスキルアップ講座を1時間設け、その後に修了式・お茶会を楽しむ。ここで新しく修了した受講生にランダムな5～6人のテーブルに入ってもらい、グループ毎にクイズやゲームをして楽しみながら馴染んでもらう機会を作っている。

#### 都市部だけでなく、山間部でも講習会を開催

喜多方市は面積が広いので、講習会の会場は山間部であったり、逆に平地で会津若松市に近い地域など場所を変えて行う。

## 結果

提供会員の数は年々増えている。

若い人たちがぼちぼち参加してくれるようになった。

講習会を地域ごとに行うことで、その地域の方が集まってきて、誕生した提供会員の中からサブリーダーをお願いし、その地域は地域の皆さんがサポートするという体制が整った。

**Family Support**  
 子育て支援センター ファミリーサポート

子どもの成長に合うように  
 一人ひとりに合った  
 この子育て支援センターには  
 子どもの個性  
 年齢のほかに  
 様々なニーズに対応

子育て支援センターの役割

① 子育て支援センターの役割  
 ② 子育て支援センターの役割  
 ③ 子育て支援センターの役割  
 ④ 子育て支援センターの役割  
 ⑤ 子育て支援センターの役割

活動時間	活動内容	参加費
月～金曜日	7:00～19:00(8:00～18:00)	600円
土曜日	9:00～18:00	700円
日曜日	9:00～18:00	700円

子育て支援センターの役割

① 子育て支援センターの役割  
 ② 子育て支援センターの役割  
 ③ 子育て支援センターの役割  
 ④ 子育て支援センターの役割  
 ⑤ 子育て支援センターの役割

◆ 困難事例への対応

Case 1. 支援学校への送迎

会津若松まで車で30～40分の送迎で、子どもがシートベルトから抜け出して車の中で自由に動き回ってしまう。支援学校の先生に相談したところ、先生がその子どもがわかるように絵を描いて伝えてくれたり、ジェスチャーなどで「だめなんだよ。じっとしてるんだよ」と（子どもに）教えてくださった。それ以降、ぴたっとおとなしくシートベルトを着用して乗れるようになった。

Case 2. 支援学校のお子さんのデイサービスからの送迎

月に1～2回程度の利用だが、発作が起こると聞いたため、病院に伺い、病院の先生、保護者、支援学校の先生、デイサービスの先生と共に事前打合せを行い、発作が起きた時の対処方法を確認した。3年ほど支援を行ったが、何事もなく支援を終了した。

配慮した点

車両専用道路を通ることもあるので、路肩に停めた時の停止版を用意したり、念のための酸素ボンベを車に常備した。万が一の場合に備え、ワンプッシュでアドバイザーの携帯につながるようしていた。

センターデータ

所在地	福島県喜多方市		
自治体人口	44,000人		
設立年	平成21年度		
運営方法	委託：NPO法人クラブまちてらす		
会員数	437人	うち提供会員数	92人
活動件数	605件		

活動件数トップ3	
1位	保護者の病気、急用等の場合の預かり・送迎など
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	保育施設までの送迎

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
 会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

## 12. いずもファミリー・サポート・センター

(直営：出雲市役所 子ども政策課)

### みなさんが安心して安全なサポートが行われることが一番大切

#### センターの特徴

核家族化が進んだことや、共働き家庭が増えたこと、働く親の勤務形態も多様化してきており地域の様子も徐々に変わってきていることなどで、ニーズが高まってきたということが設立の背景にある。事務所は本部と平田支部、斐川支部と3か所ある。

### ◆ 提供会員の確保について

#### 確保が必要になった背景と課題

慢性的に提供会員が不足していると感じている。過去10年、不足の割合は変化していない。

もともとファミサポはボランティアがベースということがあり、致し方ないのかなと思う。他人の子を預かる、送迎することへの責任の重さ。家族の反対もあったり、昔に比べ、一人一人、けがをさせてはいけなとか、神経質にならざるを得ないような情勢があるのでは。

#### 確保のために実施した内容・工夫点

##### 依頼をきっかけに両方会員になってもらうような働きかけ

学童へのお迎えの場合、その学童に子どもを通わせている依頼会員に両方会員になってもらい、我が子の送迎と同時にサポートしてもらうことでサポートの輪を広げる。その結果、実際に両方会員になってもらうことができたケースも。

##### 毎年1回の現況調査の実施

提供会員がサポートできる内容や時間帯、その他の希望など、最新情報を記入してもらう。その情報をもとに声掛けをしていく。

積極的に活動したい意向のある提供会員に関しては、重ならないように、ジグソーパズルをはめるように調整し、複数のサポートを担っていただくこともある。

##### 提供会員とのコミュニケーション

活動報告書を月に1回は持参していただくので、その時に話をしてお家族の様子、動ける時間帯、仕事をしている曜日、サポートしたときの様子を聞くなど日常の会話の中で状況を把握するようにしている。

##### 継続的な広報の必要性

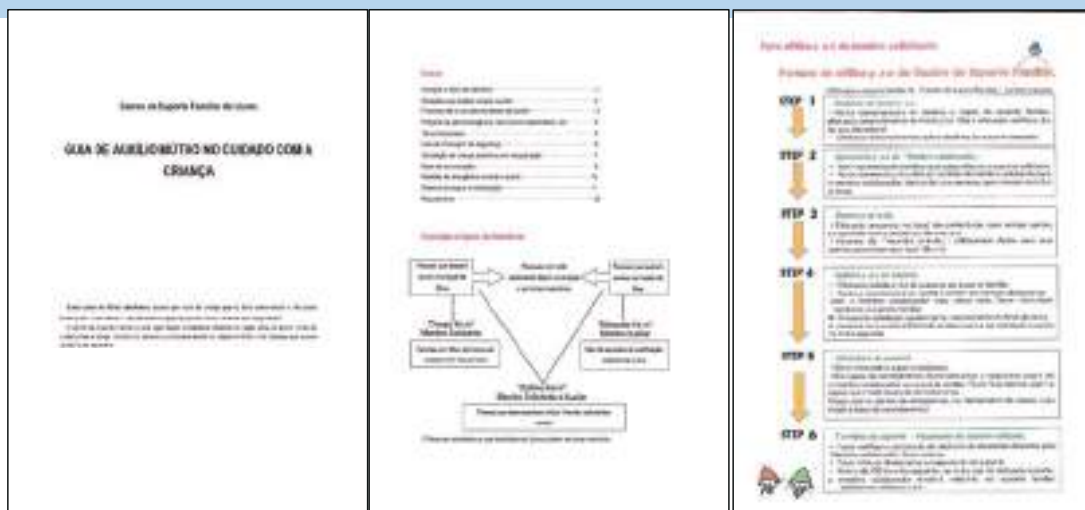
広くファミサポを知ってもらう工夫は継続的に必要だと考えている。

令和3年度は、提供会員を募集するチラシを作成し、退職予定の市職員やシルバー人材センターの会員へのアプローチ、提供会員が不足している地域に全戸配布等の方法で周知を行った。

お子さんも依頼会員さんもそして提供会員さんもみなさんが安心して安全なサポートが行われること、これが一番大切なことだと考えている。そのために依頼会員さんからはサポートしてほしい内容やお子さんの様子をしっかりと聞くこと、また提供会員さんからはお手伝いが可能な内容をしっかりと聞くことを心掛けている。また可能な限り同じ組み合わせでサポートしてもらうようにしている。

いろいろな工夫をし、少しずつ地道に効果もでてきている。

(外国籍の依頼会員に対応するための外国語の手引きなどの書類)



## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. お父さんとお母さんに知的障がいがあるご夫婦のお子さんの保育園の送迎

お父さんに知的障がいがあり、お母さんも相当な知的障がいがあるご夫婦のお子さんの保育園の送迎の依頼が保健師からあった。児童クラブの指導員もしてられる2名の提供会員によるサポートが始まったが、お父さんは早朝出勤で家におられず、お母さんも子どもも寝ているままで、玄関も閉じている。提供会員が相当頑張って起こして多少遅れても連れていく、といったように大変な状況で、保健師や児童相談所とも話し合って協議しながら続けた。ご近所ということもあり、おうちの様子を理解してくださり、適切に声掛けをしてくれたり、見守ってくださった。

提供会員に疲れが見え始めていたところ、アドバイザー同席のケース会議があり、参加していた顔見知りの民生委員に声をかけたところ、提供会員に登録し、サポートを引き受けてもらった。この方も地元の方で、お父さんとも非常によく話をされ、声掛けをしてくださる。現在は両親と良好な関係で子どもの成長を見守られており、ひとつの成功事例と言える。

### 配慮した点

#### アドバイザーとして提供会員への傾聴や寄り添いなどの配慮

以前は不登校児に関わる仕事に携わり、困難を抱える家庭に長年関わってきたアドバイザーもいる。困難を抱える家庭への関わりの難しさや課題もアドバイザー間で共通認識ができており、各アドバイザーが提供会員への傾聴や寄り添いなどの配慮を行って、提供会員が一人で抱え込まないようにしている。提供会員とのコミュニケーションに重きを置いてマッチングを行っているため、会員同士の関係が良好であるだけでなく、アドバイザーと会員との関係も良好で、あまり隔たりを感じないような関係が築けている。

### センターデータ

所在地	島根県出雲市		
自治体人口	174,000人		
設立年	平成12年度		
運営方法	直営		
会員数	1,891人	うち提供会員数	452人
活動件数	6,191件		

#### 活動件数トップ3

1位	保育施設までの送迎
2位	学童保育までの送迎
3位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業(アドバイザー調査)



## 13. 帯広ファミリー・サポート・センター

(委託：認定NPO法人子どもと文化のひろばぷれいおん・とかち)

### 多様なチャンネルを使つての周知活動と信頼関係を築くためのたゆまぬ努力

#### センターの特徴

認定NPO法人子どもと文化のひろばぷれいおん・とかちは、子どもから大人までの異年齢・多世代でのあそびを中心とした活動を通じて、豊かな子どもの世界、子どもの育ちを見守れる地域社会づくりをめざしているNPO。もともとはおやこ劇場から始まり、2006年にNPO法人化し、地域の課題解決に取り組む中で子育て支援も取り組むことになり、2013年、ファミサポを受託した。

#### ◆ 提供会員の確保について

##### 確保が必要になった背景と課題

提供会員の数自体は減っておらず、微増だが、スタッフの気持ちとしては不足しているという感覚がある。

一般的な高齢化や応募者が少ないということもあるが、帯広市の地域性である転入・転出の多さが大きいと考える。熱心に活動されていた提供会員も、転出してしまふことが多い。また、ファミサポ活動を契機に自信をつけ、再就職される方も多い。加えてコロナ禍での活動に家族からの心配の声が多く、高齢の方や小さいお子さんを持つ方はほとんど活動できなかった。

##### 確保のために実施した内容・工夫点

#### ファミサポ周知のために、できることはなんでもしよう

ポスター・チラシの制作・配布、ラジオ出演、ボランティア団体や民生委員集会での説明、行政担当課への依頼、スーパーへの訪問など、できることはなんでもしようというスタイルで取り組んでいる。

#### 市の広報誌でのお知らせと郵便局や商業施設へチラシ貼りだし

市の広報誌は一番影響力がある。丁寧に市担当課と毎月ミーティングを継続していたところ、市の広報で年1回提供会員募集のお知らせをだしてもらっている。さらに、帯広市が市内郵便局や商業施設と結んでいる協定により、帯広市からの依頼によって協定先全てにチラシ貼り出しが可能になった。

#### 地元紙や地元ラジオでの告知

地元紙に講習会の告知だけでなく、提供会員とともに取材に応じ、写真や利用者の声など大枠で掲載してもらった。地元ラジオには行事の度に出演している。

#### 他の親子の集うイベントなどでのチラシ配布

委託先であるNPO自体で親子で集う場所があり、行事も数多く行っているため、そういう機会にチラシを配って声掛けをしている。そうすることでぷれいおんの会員の中からファミサポの提供会員になってくれることもある。

#### 結果

提供会員の数は毎年微増している。減少したことはないと思う。

2013年発足から年2回開催している提供会員講習会の参加者が、これまで少ないときは2～3人しか受講生がいなかったということもあったが、2021年は新規登録が23名で、どの項目も会場の定員いっぱいの20人前後の参加となった。

年数が経ってきたこと、ポスター貼り出しやマスコミ、市の広報といった露出度が上がったことが講習会参加者の増加につながった。また、本当に動ける提供会員の受講者が増えた。



(十勝毎日新聞 2021.4.15号掲載)

## ◆ 困難事例への対応

### Case 1. 精神的に不安定で、一方的に自分の話をいつまでもしてしまうお母さん

非常に精神的に不安定で、お友達づくりも苦手、一方的に自分の話をいつまでもしてしまうお母さんから提供会員を紹介してほしいと依頼があった。提供会員（高齢ご夫婦）のお家で数時間も話し込むことがあり、スタッフが「あまり長いようだと追加の利用料金がかかることになるが、よいか」という相談を依頼会員にしたところ、お怒りになった。対応にあたったスタッフも「私のせいです」となってしまった。

#### 配慮した点

#### アドバイザーとして提供会員への傾聴や寄り添いなどの配慮

アドバイザーがいったん預かり、依頼会員から十分に時間をとり聞き取りをする中で、「自分自身も悪いと思っているが、つい話してしまう」という言葉を引き出した。1人目の提供会員がお休みされることがあり、2人目の提供会員（有保育士資格・子育て中）に依頼したところ、話し込まれるのを上手く断ったりしながら援助が続いている。ファミサポから支援を受けるその中で、依頼会員も社会とのかかわりを学んでいる様子が伺えた。スタッフにとっても、信頼関係がないなかで事務案内を入れてしまうと、依頼会員の精神状況によっては傷ついてしまうことなどを学び共有することができた。

#### センターデータ

所在地	北海道帯広市		
自治体人口	165,000人		
設立年	平成25年度		
運営方法	委託：認定NPO法人子どもと文化のひろばぷれいおん・とかち		
会員数	695人	うち提供会員数	139人
活動件数	1,195件		

活動件数トップ3	
1位	保護者の就労（短期・臨時・求職活動等）の場合の預かり・送迎など
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	保護者の病気、急用等の場合の預かり・送迎など

出典：自治体人口は自治体のHP(HP検索 2022年2月1日)  
会員数・活動件数は本調査研究事業（アドバイザー調査）

# 高知県

## 県独自の支援メニューが大変充実。開設から運営までの手厚い支援で事業の拡充に取り組む。

高知県は全国に先行して人口の減少や少子高齢化が進んでおり、産業の振興や少子化対策、女性の活躍といったことに一体的に取り組んでいく必要があった。平成26年度から女性活躍推進法の施行に先駆け、県の産業振興計画などいろいろな計画の中で5つの基本政策に横断的に関わっていく施策として女性の活躍の場の拡大を位置づけて取り組み始めた。社会全体で、子育てしながら働く女性を支援するといったしくみづくりにも取り組んできている。さらには、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的な目標としても女性の活躍の場の拡大の取り組みをしっかりと位置付けて、結婚、妊娠、出産、そして子育てといった希望をかなえていく社会づくりに取り組んでいる。

### ◆ 提供会員の確保について

#### 背景と課題

高知県は全国に先行して人口の減少や少子高齢化が進んでおり、高知版ネウボラの推進に向けて、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行っている。

ファミリー・サポート・センター事業は、地域で子育てを支え合う大変有効な仕組みであり、センターを県内全域に普及させていくことが必要だと考えた。

平成16年度に高知市にセンターができて以降、平成26年度まで新たなセンターができず、小規模な自治体が多い高知県においては、「会員数50人以上」という国の交付金の基準がボトルネックとなり開設が難しいという声が市町村からも上がっていた。そこで平成28年度から20～49人のセンターを対象にした高知版補助金を、国とは別建てで構えて市町村の支援を開始した。現在は、国の基準も「会員数20人以上」へと引き下げられたが、補助額が十分ではないため、高知県では独自に補助額を追加し、小規模なセンターへの支援を行っている。

#### 取り組み内容（周知・広報、補助金、講習）

##### 1. 周知・広報

●ファミサポの制度周知のリーフレット等の広報資料や実際の活動の状況を紹介する啓発冊子を作成。実際に活動を取材して、活動のポイントや、実際に利用した感想（預かる側・預ける側としてどうだったかなど）をうかがって、他人のお子さんを預かることへの不安感の払拭に役立っている。

市町村役場や子育て世帯が集まるイベントなどで配布したり、現在13あるセンターで会員獲得の活動や制度の説明会の時に利用している。

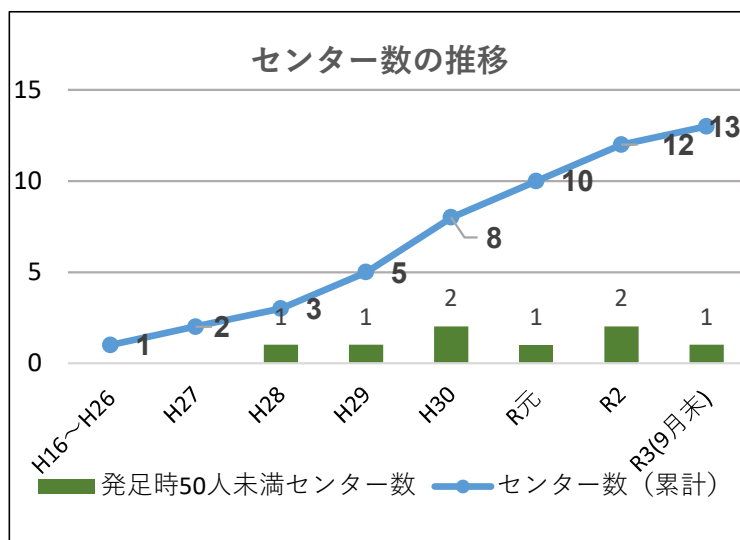
●県の広報媒体（ラジオ番組、テレビ番組）でのPR

●CM放送

15秒CMを制作して保育所の申し込み開始時期の10月頃から3月頃にかけて放送。

●イベントでの広報

民間企業主催の大規模な子育てイベントでファミサポのブースを構え、制度の周知と、認知度調査を行ったりする。



出典：高知県

## 2. 補助金

ファミサポの県全域の普及と事業の活性化のための財政的支援として、高知県独自の補助金を設定し、年々拡充を図っている。

県内最初のセンターである高知市のほか、県内の各市町村、センター、アドバイザー、利用者の声を広く聞き、小規模なセンターでも事業運営が安定的に行えるような取組を実施。

＜高知県版取組加算の一例＞

- ・20～49人のセンター新規開設への加算。2 / 3 を県が負担。（現在は国庫補助対象）
- ・提供会員養成講習を12～24時間実施する場合の加算。2 / 3 を県が補助。
- ・預かり場所の拡大として、市町村が持っている児童館や公民館などの借り上げ料への補助。1 / 2 を県が補助。
- ・提供会員の活動促進のために、1回でも活動した場合に5000円を定額で補助。

絵本やおもちゃなど、預かるときに必要なものを買うために使っていただければと考えて創設したメニュー

## 3. 講習の実施

会員の増加とセンターの円滑な運営のために講習は重要と考えている。

子ども・子育て支援研修において、ファミサポの専門講習を実施。

アドバイザーのスキルアップのための講習を毎年行っている。（平成28 年度から）

## 取り組みの成果

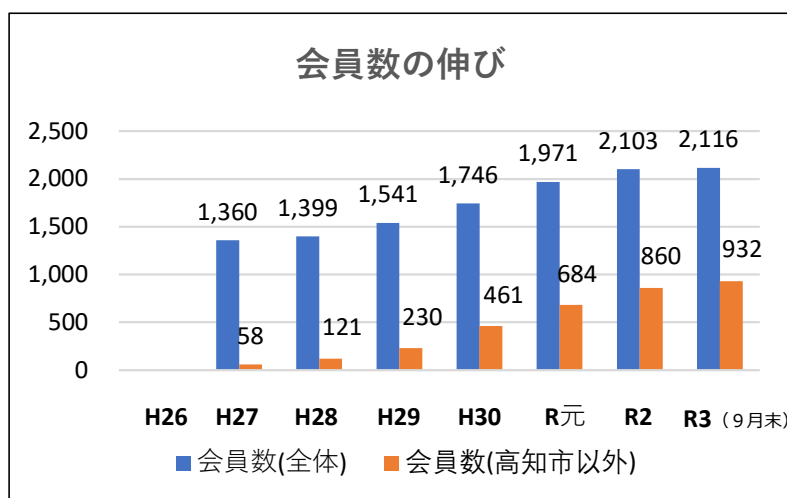
### 小さく始まったけれども大きく育った

平成26年度まで県内に高知市 1 市のみのセンター数が、平成27から 令和3年度までの間で12センターが開設し、13センターに。全会員数は平成27年度1,360人から令和3年度9月末時点で約2,100人まで増加。高知市以外のセンターについては、平成27年度の1か所・58人から、令和3年度9月末に12箇所・932人と、5年半で約900人も増加し、小さく始まったけれども大きく育ったと言える。

会員数とセンター数が増えてきたということは、県独自の制度を構えて取り組みを進めてきた結果だと思う。小規模でスタートしたところであっても、2～3年後には50人を超えてももとの国の基準に達するような取り組みに拡大してきたので、これまでの取り組みの意義があったのではないかな。

### 携わる人たちの意見を聞き続けて制度設計

市町村の担当課の職員の意見を逐一聞いたり、実際に開設したセンターから、「どんなことがあったらいいと思うか」ということを聞き続けて、制度設計してきたことが成果につながった。今後も「聞き続ける」という姿勢を継続して持ちながら、さらに改善を図っていきたい。



出典：高知県